

# 永楽通宝と鑿銭

函館工業高等専門学校

埋蔵文化財研究会

第49回全道高等学校郷土研究発表大会

2014年11月20日(木)

## 1.発表内容

- ・古銭について
- ・永楽通宝はほとんど制銭か鑿銭か？
- ・永楽通宝の鑿銭はどれ？

## 2.古銭について

### (1) 出土する古銭とは

中国で製造、発行されたお金である。当時のお金に対する認識は非常に曖昧なものであり、丸くて穴が開いていて文字が書かれてある、という程度のものであった。日本においても、同じような認識だったが、アイヌの人たちはガラス玉とともに首飾りにするなど装飾品としても使用していた。

北海道では、函館市の志海苔、知内町の涌元、上ノ国の洲崎館、日高町の賀張、留萌市のコタン浜の計5箇所で一括出土銭として出土している。その他、アイヌの人の墓から装飾品として出土したのものもある。

### (2) 涌元古銭とは

知内町涌元地区で道路工事の際に出土した古銭で、現存する枚数の総計は996枚である。その内、993枚が北宋から明の時代の中国銭、2枚がベトナム銭の天福鎮寶と開泰元寶、1枚が文字の判読が不能な不明銭である。長く個人の所有物であり詳細が未報告であった。また、現存する枚数の総計は996枚であるが、発見当時はそれよりもあったと思われる。

### (3) 永楽通宝とは

明の永楽帝の時代に鑄造された古銭で、初鑄年（初めて鑄造された年）は1408年である。中国銭だが、中国ではほとんど流通せず主に日本で流通した。その理由はわかっていない。この永楽通宝の古銭に刻まれている文字は日本から中国にいった僧侶が書いたという伝説もあり、日本と関係が深い古銭だったとも言われている。しかし、あくまでも伝説であり確かな情報ではない。

昨年の発表で、私達はほとんどが制銭ではないかと推定している。

### (4) 制銭と鑿銭

制銭とは、政府の命令によって正式に作られた古銭のことである。制銭は高い技術で作られているので、刻まれている文字や古銭の輪郭がはっきりしていることが特徴である。また、政府によって作られた古銭のため、原材料が決まっている。

鑿銭とは、私鑄銭とも呼ばれ一般の人が勝手に作った古銭のことである。制銭とは対照的に、文字が潰れていたり、輪郭がズレていたりという特徴がある。また、一般の人が勝手に作った古銭のため安い材料で作られている。

従来、この制銭と鑿銭を見分ける方法は古銭の見た目だけで判断するとしかなかった。しかし昨年発表したように、金属成分の違いから、制銭と鑿銭の判別に有効である可能性があることがわかった。しかし、金属成分の違いだけでは制銭と鑿銭の判別に有効であると断言することはできな

かった。そこで、見た目や形、大きさの違いを金属成分と合わせてみることで制銭と鑿銭の判別ができるのではないかと考えた。

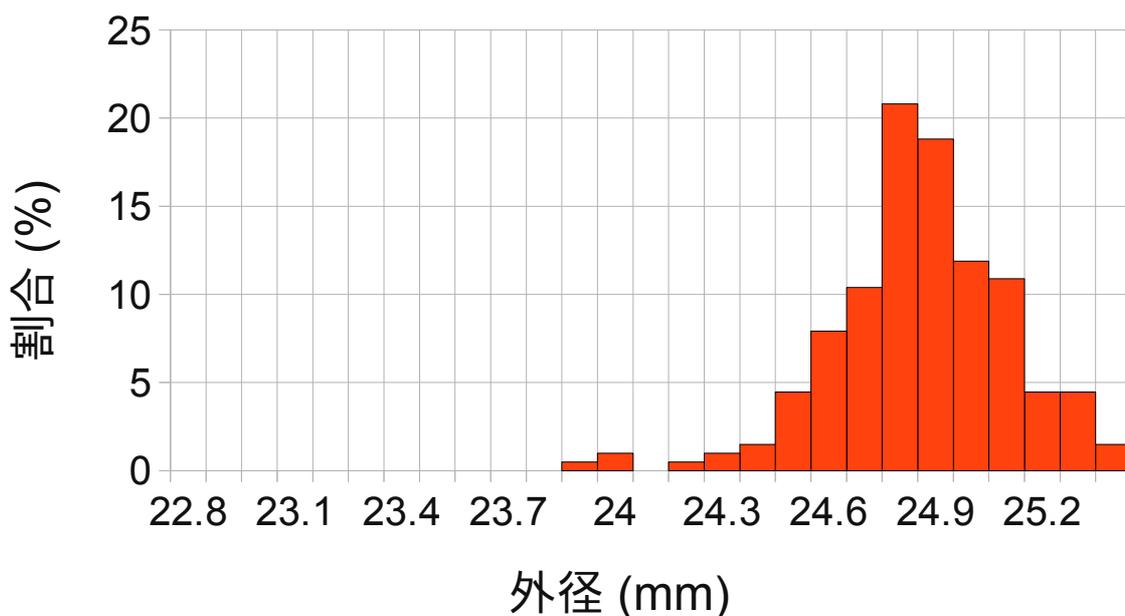
### 3.永楽通宝はほとんど制銭か鑿銭か？

これまでの成果より、成分分析の結果ほとんど制銭説が正しいという結論を得ている。今回はそれに加え、古銭の大きさに注目して調査を行った。

#### (1) 永楽通宝の測定結果

まず、制銭は大きさが定まっていて、鑿銭は大きさが定まっていないと言われていることから永楽通宝の大きさが均一であるならほとんど制銭だといえるのではないかと、という仮説をたてた。そこで、全て古銭の大きさを測定しグラフに表した。

図1 涌元から出土した永楽通宝のヒストグラム



このグラフは、涌元から出土した永楽通宝の大きさの測定結果を、横軸に外径の大きさ、縦軸にその大きさに全体の何%含まれているかを示しグラフにしたものである。

このグラフから分かることは、山が一つであること。そのことから、製造誤差の範囲内で一つの工房もしくは管理されているいくつかの工房で製造されたため、均一で精度が高いといえる。

しかし、この結果だけでは大きさが均一なのか断言できない。そこで、北宋銭の測定結果と比較してみることにした。

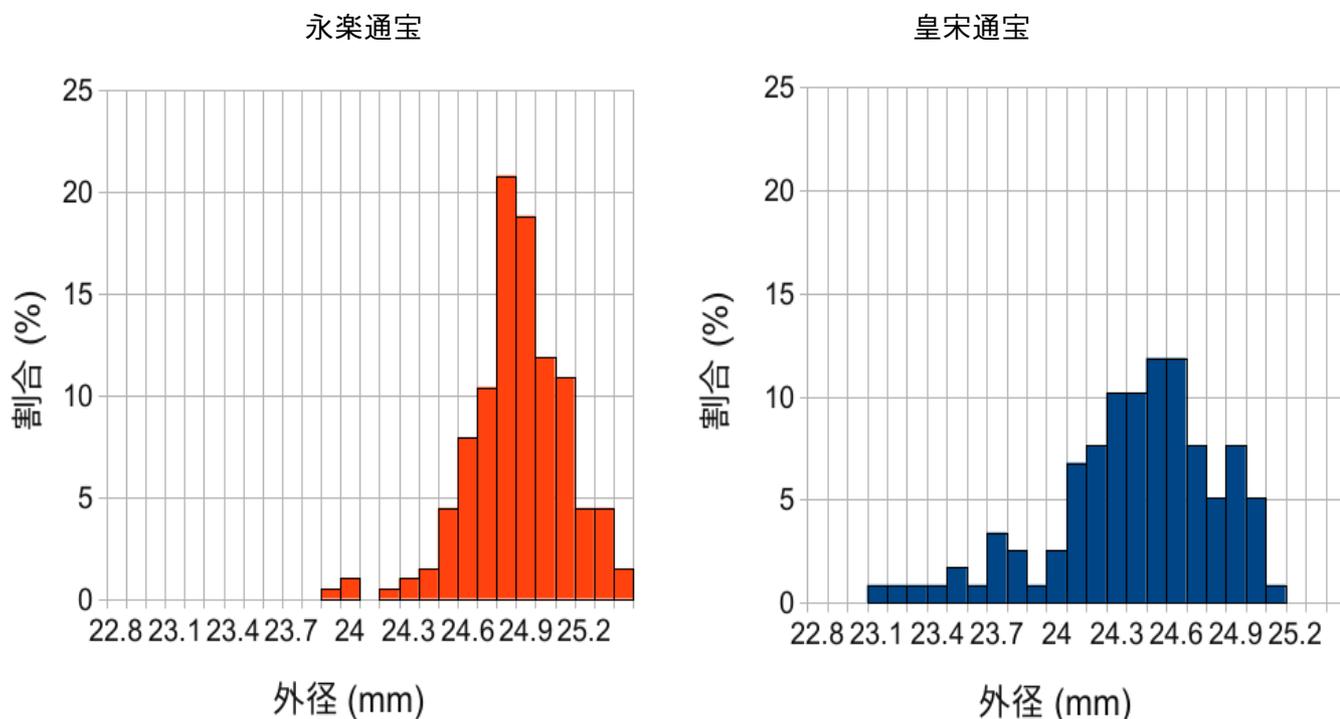
#### (2) 北宋銭とは

中国の宋王朝の古い時代である北宋の時代（960～1127年）に鑄造された古銭のことである。景

徳通宝(1004年)、天聖通宝(1023年)、皇宋通宝(1038年)など全部で45種類ある。  
 今回は枚数の多い皇宋通宝を利用した。

### (3) 永楽通宝と北宋銭の測定結果の比較

図2 永楽通宝と皇宋通宝のヒストグラムの比較



このグラフは、永楽通宝と皇宋通宝の測定結果を比較したものである。

このグラフから、永楽通宝の山が一つなのに対し皇宋通宝の山は複数あることから、永楽通宝は非常に均一であり皇宋通宝はバラつきがあることが分かる。

### (4) まとめ

永楽通宝は北宋銭に比べて非常に均一で精度が高いと言え、制銭の割合が高いといえる。この結論は、昨年の研究結果と一致した。

このことから私達は、永楽通宝がほとんど制銭であると主張する。

## 4. 永楽通宝の中の鑿銭

### (1) 通説

古銭研究者の間では、鑿銭は制銭を砂型にして作られるので大きさが小さくなる、穴が大きくなるといわれている。

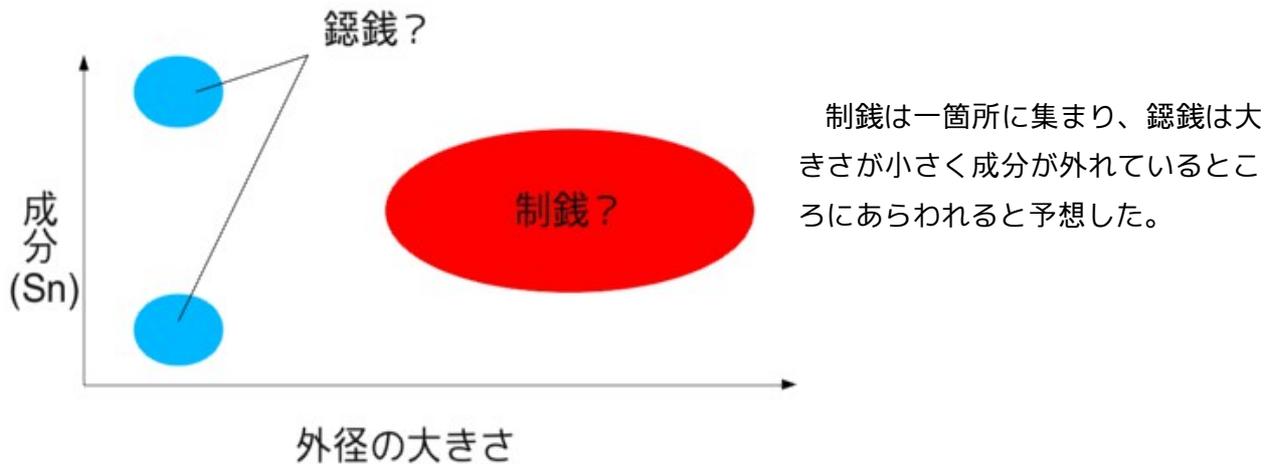
(2) 仮説

これまでの研究成果より、成分から制銭と鑿銭の判別が出来る。そして、通説との2点より、成分比によって鑿銭と判別されたものは制銭と比べて外径が小さくなる、内径が大きくなる、厚さが薄くなる、重さが軽くなるという仮説をたてた。

(3) 予想

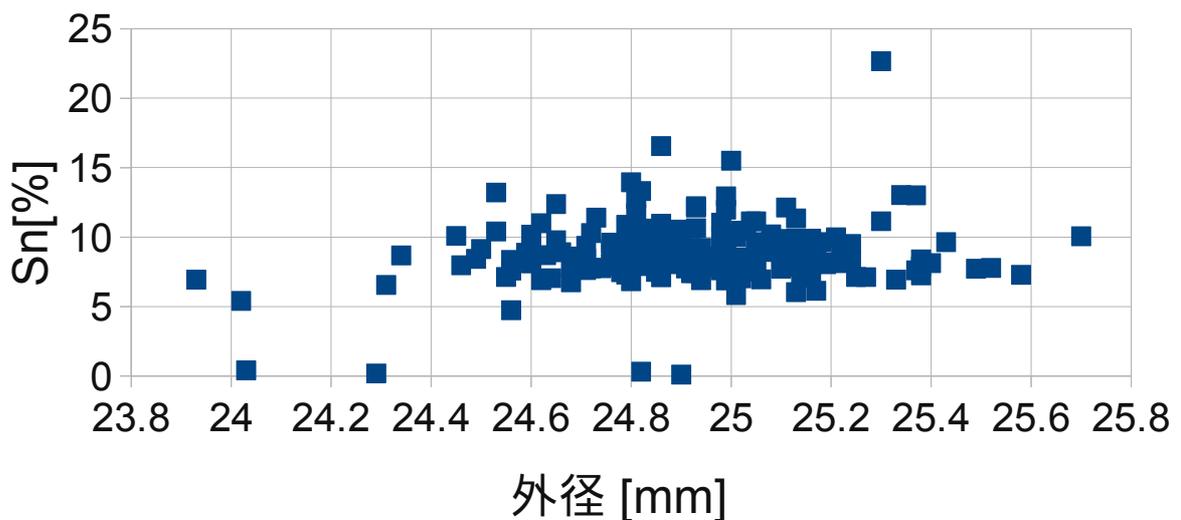
仮説より、縦軸に銅の成分、横軸に外径をとりグラフ予想をした。

図3 鑿銭分布予想



(4) 結果

図4 永楽通宝の分析結果(1)



グラフから、予想通り制銭と思われるプロットと鑿銭と思われるプロットがあらわれた。しかし、成分比は制銭で大きさが小さい領域、成分比は鑿銭で大きさが標準の領域、成分比は制銭で大きさが大きい領域などの予想外のプロットがみられた。

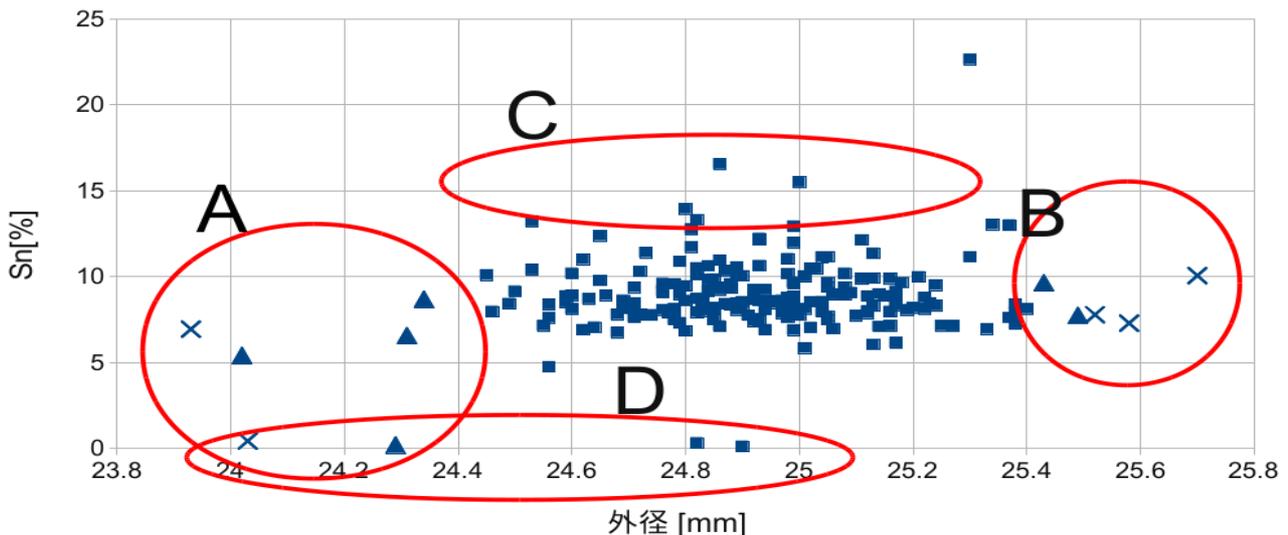
## (5) まとめ

制銭とみられる塊の周りに無造作にプロットが散らばり、大きさと成分の関連性はみられなかった。この結果より、全ての鑿銭が小さくなるとはいえない。また、成分分析だけでは全ての鑿銭を判別することはできない可能性がでてきた。

## 5. 鑿銭はどれか

### (1) 鑿銭と思われるもの

図5 永楽通宝の分析結果(2)



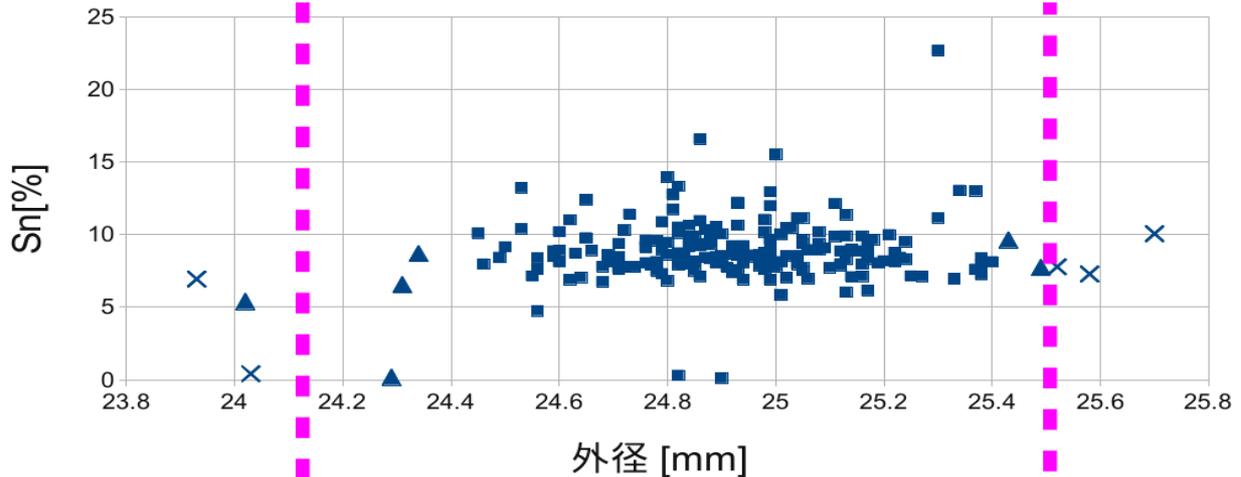
まず、C、Dの範囲の古銭を検討してみた。これらは、成分比より鑿銭と判別できた。

次に、Aの範囲の古銭を検討してみた。これらは、グラフだけでは判別できなかったため一つずつの古銭の表面をみてみた。×で示されたものは見た目が粗悪で鑿銭と思われるもの、▲で示されたものは見た目がきれいで鑿銭かどうか判別がつかないものがあった。

このことから、外径が24.1mm以下になると、見た目が粗悪なものが増えていることがわかった。したがって、そこが制銭と鑿銭の境界線ではないかと考えた。

次に、Bの範囲の古銭を検討してみた。この場所もグラフだけでは判別がつかなかったため、一つずつ古銭表面をみてみた。すると、先ほどと同じような結果が得られた。このことから、25.5mm以上になると、見た目が粗悪なものが増えていることがわかった。したがって、そこが境界線ではないかと考えた。

図.6 永楽通宝の分析結果(3)



図の点線の内側が制銭、外側が鑿銭と思われるが、今回の分析では確証が得られなかった。

## (2) まとめ

外径の大きさに、見た目が粗悪なものが増える境界があった。この境界を制銭と鑿銭の境界とは断言できないが、仮にもしこの考えが正しいとすれば、成分比と大きさの二つをそれぞれみることによって、どれが鑿銭であるかを判別できるように考えた。

## (3) 今後の課題

一つ目に、大きさから制銭と鑿銭の判別をするのは現段階では難しい。そこで、他の一括出土銭の永楽通宝でも同じ結果が得られれば資料数が増え、説得力のある結果になると考えている。現段階での有力候補は日高町の加張古銭だと考えている。

二つ目に最終的に制銭と鑿銭の判別がどうしても見た目になってしまうので、古銭の表面の文字をコンピュータ上で画像処理を加えることによって、より明瞭に判別できるのではないかと考えている。また、古銭の型の種類を特定できるのではないかと考えている。

## 謝辞

古銭や資料をご提供くださいました知内町郷土資料館様、日高町立門別図書館様にお礼を申し上げます。また、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置の使用についてご指導くださいました函館工業高等専門学校的小林淳哉先生にお礼申し上げます。